

派遣先所属 福島県教育庁財務課施設財産室

氏 名 矢島 拓弥 (やじま たくや)

派遣期間 平成26年4月1日～平成27年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の教育庁財務課施設財産室では、主に県立学校施設の災害復旧に関する業務を行っています。県内の県立学校施設は111校ありますが、東日本大震災で94校が被災し、被害額は約223億円に及んでいます。これら被災した学校を復旧させ、生徒が安心して学べる環境を整備していくための業務です。

具体的な業務内容は、復旧にかかる工事や設計の進行管理、予算管理等です。進行管理に関しては、予定した工期内に復旧が完了するように発注時期、契約後の工程、変更手続きを学校や営繕課、出先機関である建設事務所と調整しながら行っています。



左から①津波被害のあった水産系高校格技場 いわき市 ②仮設校舎前での授業風景 工業系高校 いわき市（現況写真）

現在（H26.10末）の県立学校施設の復旧状況は97.0%となっており、かなり復旧が進んできています。地域別で見ると、会津地方は復旧が完了し、被害が大きかった中通り、浜通りを中心に大規模な改築工事等が行われているところです。しかしながら、工事現場では復旧・復興事業の増加に伴う作業員不足や資材不足等が慢性的に発生しており、なかなか思うように進まないのが現状です。また、原子力災害で避難区域となった学校は被害状況すら分っておらず、避難区域の解除とともに状況の確認を行い対応の検討をしていく予定です。

次項の写真は、平成26年に竣工した伊達市、福島市の普通高校校舎棟です。どちらも被害が大きく改築工事となった校舎です。内装木質化やエレベーター等も設置され、学習しやすい環境が整備されました。

しかし、学校関係者からは「震災から3年経ち、校舎が復旧しなかったのは生徒にとって大きなことだった」との話を伺いました。これは、震災直後に入学した1年生が3年間仮設校舎で生活し、一度も新校舎を使わずに卒業してしまったという思いから出た言葉です。



左から①普通高校校舎棟 エレベーターホール 伊達市 ②普通高校校舎棟 教室 福島市

この話を聞いたとき、学校施設の災害復旧は出来る限り早く復旧させ、在校生に少しでも長く使ってもらふ意識が必要なのだと改めて気付かされました。今後も4年目、5年目と災害復旧が続きますが、その意識が薄れてはならないと感じています。

2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

除染作業は、私が住んでいる福島市内においても行われています。下中の図ですが、自宅に届いた除染作業のお知らせです。駐車場を除染するので車の移動をお願いしたいとの内容ですが、これをみると原子力災害がまだ収束していないというのを実感してしまいました。

下右の写真は、津波で多くの建物が被災したいわき市小名浜港近くの海岸です。現在は建物基礎部分のみが残る状況で、基礎コンクリートの撤去工事を行っています。復旧事業はまだ道半ばではありますが、このような現場をみると作業が着々と進められており、復旧に向けて前進しているというのを感じます。



左から①除染作業の看板 福島市 ②自宅に届いた除染作業のお知らせ ③豊間海岸 いわき市

3 終わりに

私は派遣前後で福島のイメージが変わりました。正直行くまでは不安もありました。しかし実際に生活する中で多くの魅力を見つけることができ、多くの人に出会うことができました。まだ原子力災害等、課題が残る福島ですがぜひ来ていただいて現状を見ていただければと思います。これから福島が復旧・復興するまで私は福島のことを応援していきます。